

---

# 第10回モニタリング会議 ご説明資料 (2016年4月～2017年3月業績報告)

2017年6月



1. 計画と実績の対比	p.3
□ 全社PL	
□ 路線バスPL	
□ 軌道PL	
2. 公共交通利用状況	p.7
□ 路線バス	
□ 軌道	
3. 公共交通取組状況	p.9
4. 公共交通に関する設備投資の実施状況	p.10

## 計画と実績の対比（全社PL）

## 全社の事業再生計画第2期（2016年4月～2017年3月）実績は、以下のとおりです

※事業再生計画の財務数値は、「とさでん交通」と「とさでんトラベル（旅行業）」との合算

	2017/1～3月	2016年度	2016年度	達成率 ②÷①	単位：百万円	
	第4四半期	12ヶ月	12ヶ月		2015年度 前年同期	前年 同期比
	実績	計画①	実績②		実績	
売上高	1,328	5,568	5,780	104%	5,922	98%
売上原価	133	579	724	125%	778	93%
差引収益	1,195	4,989	5,056	101%	5,145	98%
人件費	588	2,593	2,650	102%	2,621	101%
厚生費	107	304	384	126%	368	104%
動力費	92	533	357	67%	372	96%
修繕費	97	306	326	107%	315	103%
物件費	32	108	105	97%	109	96%
経費	242	1,010	971	96%	947	103%
諸税	14	105	73	69%	68	107%
減価償却費	113	451	443	98%	419	106%
営業費計	1,286	5,410	5,308	98%	5,219	102%
営業利益	-90	-421	-252	-	-74	-
営業外収益	26	56	95	170%	92	103%
営業外費用	18	74	95	128%	83	114%
経常利益	-82	-439	-252	-	-65	-
特別利益	625	498	644	129%	553	116%
特別損失	194	182	320	176%	263	122%
税引前当期利益	349	-123	72	-	225	32%
法人税等	24	2	34	-	73	47%
当期純利益	325	-125	38	-	152	25%

## ＜経費科目説明＞

動力費・・・軌道動力費・バス軽油費等 修繕費・・・軌道、バス事業における各種修繕等 物件費・・・水道光熱費・備用品等  
 経費・・・賃借料・借地料・広告宣伝費・道路使用料等 諸税・・・固定資産税・自動車税等 減価償却費・・・固定資産償却・のれん代償却  
 営業外収益・・・受取配当金・業務委託料等 営業外費用・・・支払利息等 特別利益・・・補助金等 特別損失・・・事業再生関連費用等

## ＜事業再生計画比＞※2017/3月期は赤字計画

- ・左記の通り、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益すべて計画を上回り達成。
- ・125百万円の赤字計画だったが、収益事業部門が計画比で上ブレ、および軽油単価低位推移、棧橋集約にかかる一時費用の低減等により黒字を確保

- 売上高は5,780百万円となり計画比104%
- 売上原価は旅行事業部門の要因で増加したが、差引収益は5,056百万円となり計画比101%
- 営業費は、人件費・厚生費・修繕費が計画比増加の一方で、軽油単価の低位推移などにより計画内
- 営業利益・経常利益ともに△252百万円であるが、計画比赤字幅縮小
- 特別利益は運行等補助金、軌道事業の工事負担金受入額等で644百万円、特別損失は固定資産圧縮損・事業再生関連（棧橋集約費用含む）費用等320百万円を計上
- 税引前当期利益72百万円、税引後当期純利益38百万円の黒字決算

## ＜対前年同期実績比＞

- 売上高は、南国SA（前期年間売上高146百万円）撤退により減収（なお、南国SAは赤字部門であったため収益は改善）
- 営業費は、前年比で人件費等を中心に全体が増加

## 計画と実績の対比（路線バスPL）

路線バス事業の2016年4月～2017年3月実績の専属営業損益は、以下のとおりです

	2016/4～2017/3 12ヶ月		達成率 ②÷①	2015/4～2016/3 前年同期 実績	
	計画①	実績②		前年 同期比	前年 同期比
売上高	1,106	1,097	99%	1,150	95%
売上原価			-		-
差引収益	1,106	1,097	99%	1,150	95%
人件費	749	842	112%	795	106%
厚生費	86	120	140%	112	107%
動力費	193	130	67%	133	98%
修繕費	120	125	104%	131	95%
物件費	29	27	93%	26	104%
経費	164	175	107%	164	107%
諸税	25	12	48%	11	109%
減価償却費	79	89	113%	76	117%
営業費計	1,445	1,521	105%	1,448	105%
専属営業損益	-339	-424	-	-298	-
減価償却前専属営業損益	-259	-334	-	-222	-

単位:百万円

## &lt;計画差異要因等&gt;

- ✓ 売上高
  - 計画を若干下回る着地
- ✓ 費用
  - 人件費:時間外手当の増
  - 厚生費:人件費増、科目計上ルール変更に伴う増
  - 動力費:軽油単価の計画比低位推移
  - 修繕費:車両老朽化による臨時修繕の増加
  - 経費:ですかシステム更新賃借料、自動車保険料の増
  - その他:車両等設備投資による減価償却費の増

## ✓ 専属営業損益

- 動力費の低減はあるが、人件費の増加等により、計画比▲85百万円の未達となった

## &lt;前年同期差異要因等&gt;

- ✓ 費用
  - 人件費・厚生費:時間外手当の増加
  - 経費:ですかシステム更新賃借料、自動車保険料の増
  - 減価償却費:車両等設備投資による増

## &lt;科目計上ルール変更とは&gt;

- ✓ 計画上、嘱託社員等の人件費+厚生費を全て人件費計上していたが、実績は人件費と厚生費をそれぞれに分けて計上している

&lt;専属営業損益とは&gt;

- ✓ 本社費配賦前の事業別営業損益

## 計画と実績の対比（軌道PL）

軌道事業の2016年4月～2017年3月実績の専属営業損益は、以下のとおりです

単位：百万円

	2016/4～2017/3	2016/4～2017/3	達成率 ②÷①	2015/4～2016/3	前年 同期比
	12ヶ月 計画①	12ヶ月 実績②		前年同期 実績	
売上高	1,000	1,050	105%	1,034	102%
売上原価			-		-
差引収益	1,000	1,050	105%	1,034	102%
人件費	559	591	106%	581	102%
厚生費	70	89	127%	84	106%
動力費	77	75	97%	75	100%
修繕費	47	75	160%	53	142%
物件費	22	24	109%	21	114%
経費	60	68	113%	62	110%
諸税	16	6	38%	6	100%
減価償却費	46	38	83%	44	86%
営業費計	897	967	108%	926	104%
<b>専属営業損益</b>	<b>103</b>	<b>83</b>	<b>81%</b>	<b>108</b>	<b>77%</b>
減価償却前専属営業損益	149	121	81%	152	80%

&lt; 専属営業損益とは &gt;

- ✓ 本社費配賦前の事業別営業損益

## &lt; 計画差異要因等 &gt;

- ✓ 売上高
  - 計画を50百万上回り大幅達成
- ✓ 費用
  - 人件費：時間外手当の増
  - 厚生費：人件費増・科目計上ルール変更に伴う増
  - 修繕費：車両・設備修繕の増
  - 経費：ですかシステム更新賃借料、知寄町P&R賃借料等に伴う増
  - 減価償却費：車両等資産の償却減
- ✓ 専属営業損益
  - 費用増により、計画比▲20百万円の未達となった

## &lt; 前年同期差異要因等 &gt;

- ✓ 費用
  - 人件費・厚生費：時間外手当の増
  - 修繕費：車両・設備修繕の増

&lt; 科目計上ルール変更とは &gt;

- ✓ 計画上、嘱託社員等の人件費+厚生費を全て人件費計上していたが、実績は人件費と厚生費をそれぞれに分けて計上している

## 計画と実績の対比(全社BS)

2017年3月末時点のBSは、以下のとおりです

のれん代控除後の実態純資産は計画比+747百万円(計画110百万円、実績857百万円)

単位: 百万円	0期			1期			2期		
	計画	実績	計画比	計画	実績	計画比	計画	実績	計画比
	15/3	15/3		16/3	16/3		17/3	17/3	
流動資産	1,658	2,235	577	1,573	1,965	392	1,384	1,634	250
現金預金	860	1,175	315	792	1,273	481	615	737	122
売上債権	577	821	244	560	492	-68	554	710	156
棚卸資産	82	73	-9	82	58	-24	77	60	-17
その他	138	166	28	138	142	4	138	127	-11
固定資産	6,112	6,319	207	6,137	6,196	59	6,060	6,355	294
有形・無形固定資産	4,787	4,759	-28	4,812	4,687	-125	4,735	4,785	50
(うち、のれん相当額)	935	935	0	810	810	-	685	685	-
投資その他の資産	1,325	1,560	235	1,325	1,509	184	1,325	1,570	245
資産の部	7,770	8,554	785	7,710	8,161	451	7,445	7,989	544
流動負債	1,167	1,620	453	1,124	1,333	209	1,100	1,374	274
仕入債務	798	1,121	323	789	880	91	774	1,006	232
その他	369	499	130	335	453	118	326	368	42
固定負債	5,603	5,630	27	5,666	5,392	-274	5,550	5,073	-477
借入金	3,675	3,675	0	3,471	3,442	-29	3,272	3,152	-120
その他	1,928	1,955	27	2,195	1,950	-245	2,278	1,921	-357
負債の部	6,769	7,250	481	6,790	6,725	-65	6,649	6,447	-204
純資産の部	1,000	1,304	304	920	1,436	516	795	1,542	747
負債及び純資産合計	7,770	8,554	785	7,710	8,161	451	7,445	7,989	544
指標の検討	計画0期	実績	計画比	計画	実績	計画比	計画	実績	計画比
実態純資産(のれん控除後)	65	369	304	110	626	516	110	857	747
有利子負債	3,675	3,675	0	3,471	3,442	-29	3,272	3,152	-120
D/Eレシオ	3.7	2.8	-0.9	3.8	2.4	-1.4	4.1	2.0	-2.1
実態自己資本比率(のれん控除後)	1.0%	4.8%	3.8%	1.6%	8.5%	6.9%	1.6%	11.7%	10.1%

公共交通利用状況（路線バス）

路線バスの2016年4月～2017年3月利用状況：運送収入は前年比95%、IC利用客数は前年比99%

- 本表は運送収入のみ  
 広告収入及び、補償金等の特殊要因が含まれる「運送雑収入」は含めていない

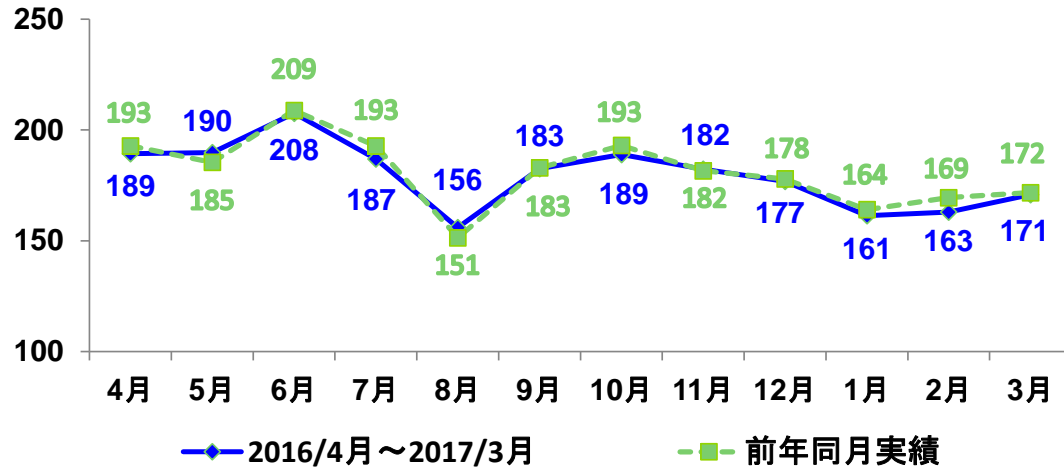
単位：百万円

	2016/1～3月	2017/1～3月	2015年度	2016年度	前年 同期比 ②÷①
	3ヶ月 前年同期	3ヶ月 実績	通期 前年同期①	通期 実績②	
運送収入	265	251	1,120	1,067	95%
①定期全体	55	51	236	227	96%
②定期外収入	210	199	884	841	95%
うち、現金収入	115	109	483	454	94%
うち、SF	95	90	401	387	97%

＜路線バス収入の増減要因＞

- ✓ 2014年10月1日とさでん交通発足時のダイヤ改正にて△2.5%、及び2015年10月1日のダイヤ改正にて△0.6%、2016年10月1日ダイヤ改正にて△3.0%の減キロダイヤ改正を実施。
- ✓ 運送収入95%の要因は、ダイヤ改正にともなう減キロ、空港連絡バスの競合、各種割引施策による影響が考えられる
- ✓ 空港連絡バスを除いた路線バス収入は前年同期比96%で推移

＜利用客数推移＞ 単位：千人



＜利用客について＞

- ✓ 対前年同月比において2ヶ月は増加。2ヶ月は前年並み、その他は減少
- ✓ 年度累計のICカード利用客数は2,155千人、前年同期は2,172千人にて0.8%の微減
- ✓ ほぼ前年並で推移している要因は、2015年10月以降に実施した各種割引施策等による利用促進施策の取組効果などが考えられる

- 利用客数は、ICカード「ですか」データに基づいており、現金などを除く
- IC使用率は約70%

## 公共交通利用状況（軌道）

## 軌道の2016年4月～2017年3月利用状況：運送収入、IC利用客数ともに前年比100%

- 本表は運送収入のみ  
広告収入及び、補償金等の特殊要因が含まれる「運送雑収入」は含めていない

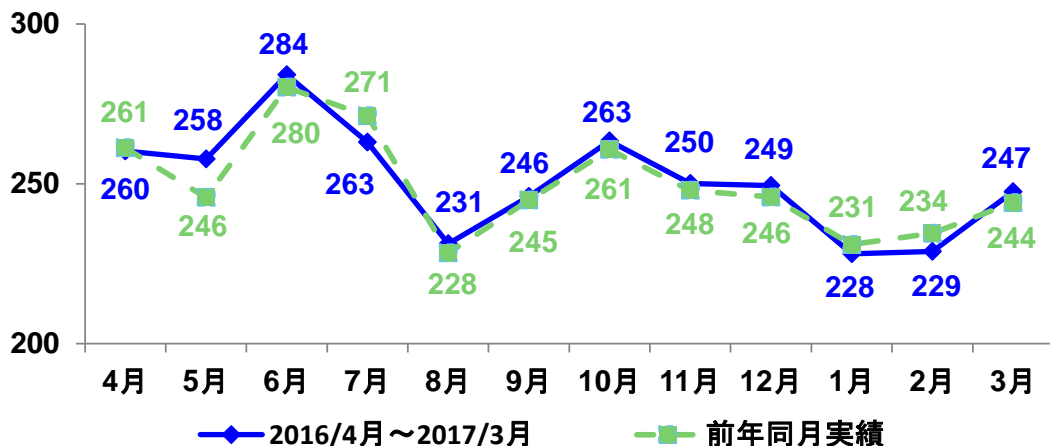
単位：百万円

	2016/1～3月 3ヶ月	2017/1～3月 3ヶ月	2015年度 通期	2016年度 通期	前年 同期比 ②÷①
	前年同期	実績	前年同期①	実績②	
運送収入	222	218	938	936	100%
①定期全体	61	59	250	252	101%
②定期外収入	162	159	687	684	99%
うち、現金収入	106	105	450	452	100%
うち、SF	56	54	238	232	98%

## ＜軌道収入の増減要因＞

- ✓ 運送収入は前年同期比並み
- ✓ 2016年4月～2017年3月の雨天日は前年比△4日、また昨年9/20の台風運休等のマイナス要素もあったが、通勤・通学定期が前年度比プラスで着地したほか、各種利用促進施策の取り組み等の影響もあり前年並みで着地したものとする

## ＜利用客数推移＞ 単位：千人



## ＜利用客について＞

- ✓ 対前年同月比において8ヶ月は増加、その他は減少。
- ✓ 年度累計のICカード利用客数は3,009千人、前年同期は2,995千人にて0.5%の微増
- ✓ 増加要因としては、2015年10月以降の各種割引施策等、利用促進施策の取組効果などが考えられる

- 利用客数は、ICカード「ですか」データに基づいており、現金などを除く
- IC使用率は約50%



## 2016年度、路線バスと軌道の取組施策は以下のとおりです

内容	路線バス	軌道
■2016年4月1日～2017年3月末		
1. バスこっち導入 4月～	○	-
2. 乗継割引サービス(はりまや橋エリア限定)開始 4月～	○	○
3. ですかキャンペーン実施 4月～・11月～	○	○
4. 空港連絡バスルート変更(東部自動車道の開通に伴う) 4月～	○	-
5. ローラー活動(前浜パークタウン/文珠/いの/一宮・薊野/十津ほか) 9回	○	○
6. 市内中心部電停 時刻表配布 4月	-	○
7. 高校県体応援一日乗車券の販売 5月	-	○
8. 電車の日イベント開催 5月	-	○
9. 公共交通体験プログラム<電車とバスで高知をうろちよ> 6月、12月	○	○
10. 遠地津波避難訓練実施 6月	-	○
11. 婚活電車の運行(5回運行)	-	○
12. 春・夏・冬休み! バスキッズ定期券販売開始 7月～	○	-
13. バスキッズイベント 7月・8月	○	-
14. ICですかナイスエイジキャンペーン実施 7月～	○	○
15. 安全運転訓練車・接遇研修施設運用開始 7月～	○	-
16. キャラバンバン(中央公園)ブース出展 バスこっち体験他 7月	○	-
17. 知寄町3丁目P&R運用開始 7月～	-	○
18. 風鈴電車の運行 8月	-	○
19. 平成28年度高知セカンドライフ友の会「リフレッシュ講座」講演 9月	○	○
20. 四国まるごと公共交通利用促進キャンペーン(交通安全広場) 9月	○	○

内容	路線バス	軌道
■2016年4月1日～2017年3月末		
21. お客さまアンケートの実施 11月～	○	○
22. 婚活電車の運行 南国市観光協会 11月	-	○
23. FM高知ハイシックスリレーマラソン ブース出展 11月	○	-
24. 電車・バス合同防災・事故訓練 12月	○	○
25. 新春初詣きっぷ 1月	○	○
26. 小学生を対象とした出前授業 2月～(潮江東小学校)	○	○
27. こうち環境博2017こどもワンダーランド ブース出展 2月	○	○
28. 幕末維新博 1日乗車券発売開始 3月	○	○
29. 土佐のおきゃく2017 ブース出展 おきゃく電車運行 3月	○	○
■2017年4月1日以降(参考)		
1. 「バスこっち」データを活用した運行時分の見直し 4月	○	-
2. ローラー活動(横浜キュータウン/鳥越・塚の原・口細山) 2回	○	○
3. 電車の日イベント開催 5月	-	○
4. 公共交通体験プログラム<電車とバスで高知をうろちよ> 6月	○	○
5. 防災訓練 6月	○	○

## 公共交通に関する設備投資の実施状況

2016年4月～2017年3月の公共交通に関する設備投資は、以下表のとおりです

【2016年度 設備投資計画実施内容】

単位：百万円

事業	計画			実施		備考
	投資計画総額	主な投資内容	投資計画額	投資実績額	投資目的・狙い	
路線バス	108	補助車両(5両)の購入	99	99	安全安心、利便性向上	平成28年4月に2両、29年3月に3両を購入
		利用促進・増収施策	0	10	利便性向上	平成29年3月にバス停改修工事(15基)を実施
		その他	9	11	安全安心、利便性向上	前浜休憩所設備工事他
軌道	138	レールの重軌条化	50	49	安全安心	上町一丁目～二丁目間
		鏡川橋橋梁所定動過重設計	28	27	安全安心	鏡川橋軌道橋梁調査
		停留場拡幅・上屋改良等	15	0	安全安心	はりまや橋下(実施に向け対応も未実施)
		踏切保安装置	11	10	安全安心	篠原および篠原八幡踏切
		電柱建替工事他	34	30	安全安心他	電柱建替更新工事、コンプレッサー内部品(電機子巻替)他
合計	246		236			

■当年度に計画していた軌道の車両購入(1両:250百万円)は、車両メーカーの製造計画の関係で、次年度(2017年度)購入に変更

■路線バス低床化率 42.8%(平成29年3月末時点)【路線バス車両数138両(空港連絡除く)、うち低床車両59両】

【事業再生計画 設備投資計画進捗状況(累計)】

単位：百万円

		計画0期 15/3半期	計画1期 16/3期	計画2期 17/3期	計画3期 18/3期	計画4期 19/3期	計画5期 20/3期	累計	
路線バス	計画	109	151	111	111	111	111	703	
	実績	146	70	120				336	47.8%
軌道	計画	51	139	279	197	118	37	821	
	実績	51	125	116				292	35.6%